

横芝の碑

(その四十八)

思い出を秘める大島橋

横芝小学校のプール下を海の子

供の国方面に向う道路は、小学校の塀が途切れると東部耕地整理組合の用水路で、ここに架っている橋を大島橋と呼んでいます。この辺りは、昔、と言っても大正の始め頃は一面の湿地帯で、この橋も荒木丸太を並べ、その上に芝草を載せた程度のものでした。そして大島橋と呼ぶ様になったのは、現在のコンクリート橋に架け替えられた時この辺りの地名が大島であることから名付けられたからであるという話です。それまでは「学校前の橋」等と呼んでいた本当に名もない橋だったということ。橋にはおお志まばしとセメントの型打式に刻まれています。その一部は剥け落ちたり、欠損したりしています。それに、すぐ上流には流水路調整用の水門が厳とした姿を見せていますし、下流には児童通学用のスマートな橋が出来たりしていますので、これに気を奪われ、直接渡っている大島橋の存在はどうしても忘れられてしま

いそう痛々しくさえ感じます。ところが、この橋を忘れることは出来ない、思い出の橋だ、とい

う人が大勢いるのです。

何時だったでしょうか、こんなことがありました。役場に用事があつての帰り道のことでした。この橋の手すりに腰をかけた。この辺りを指差しながら何か話し合っている二、三人の人々を見かけました。役場の用事は三十分位で済

んだのですが、往く時にも居られた筈でした。元来の野次馬根性と、その人々が昵懇に願っていたこともありましたので、つい自転車を止めて声をかけて見ました。

「魚でもいるんですか？……用水の問題ですか？……」時折鯉や鮒が登ってくるという話も聞いていましたし、また丁度用水調節期でもありましたのでそんな風な質問をしたのですが、その返事には以外な言葉が戻ってきたのです。「魚もいるかもしれませんが。また水利の問題もあるかもしれませんが

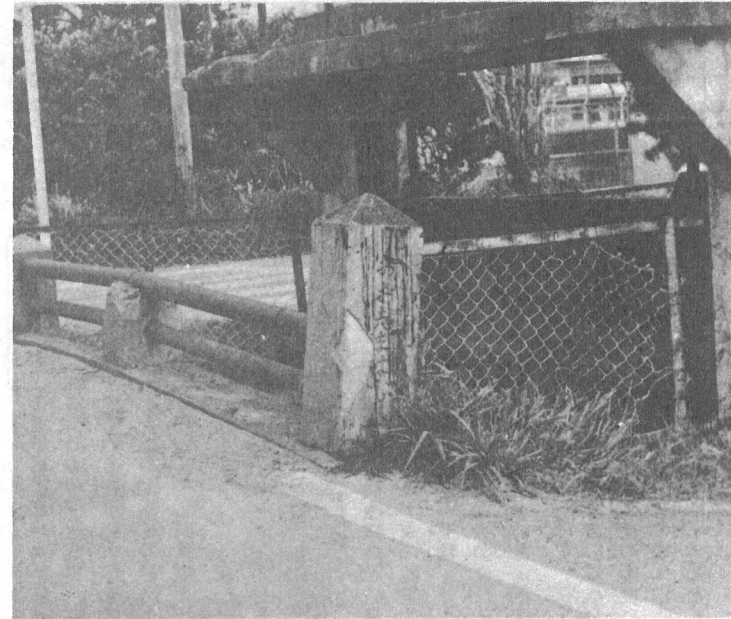
が今話し合っていたのはこの橋の思い出話なんです。鳥喰や栗山方面から小学校に通っていた私達には、みんな何かの思い出を持っているのがこの橋なのです。朝はこの橋まで来ると「学校に来た」という気になりますし、帰りにはこの橋まで来ると「家へ帰るんだ」という解放された気持ちになったものです。昔は授業の報らせは鐘だったのでしょう。朝は授業の始まる五分前に予令の鐘が鳴ったものですが、その鐘がこの橋を渡る前に鳴ると遅刻する、というので、一生懸命走りました。後手に抱えたカバンの中で、筆入れや弁当箱のおかず入れや箸がガラガラと鳴った音を今でも覚えています。また用水が止まっている時期等には意地悪っ子が橋の下に隠れていて、女の子や下級生の前に突然飛び出して驚かせたり、仲よし同志が帰りの待合せをしたりしたのもこの橋でした。昭和三十年頃だったと思いますが毎年進級すると各級毎に、講堂と桜並木を背景にして、この橋の上で記念撮影をしたのも思い出の一つですね。その他にもいろいろ思い出があるんですよ。

横小も随分立派になったことは嬉しいのですが、あの頃の面影は大島橋にだけ残るのかと思うと少し淋しい気持ちになる等と話してました。三人の方々が交々話ってくれた内容は凡以上の様なもの

でしたが、聞いている中に、「これは三人の方々ばかりでなく、この橋を渡って通学した昔の小学生全部の気持ちではないだろうか、という感じが、何時か私の心を支配していました。そして、この橋の下流を堰止めて設けた横小の仮設プールの様子を取材したのが、この橋の上からであったこと等も懐しく思い出されたのです。

○写真は鳥喰方面から眺めたその大島橋で、おお志まばしの六字や毀損している様子がよくわかります。フェンスの後は水門が見えています。その後は横小です。本稿取材に当り、元成東高校教諭井上平四郎先生(横小前)の御協力を戴きました。尚、横小は周知の場所なので今回も案内図は省略させて頂きました。

町文化財審議会委員 小沢春光氏寄稿



一号用水路にかかるおお志まばし

**親と子が
一日一度は
話し合い**

「社会を明るくする運動」横芝実行委員会